

第3回金峰山少年自然の家整備運営審議会 会議録要旨

I 開催日時

令和5年1月18日（水）午前10時～11時50分

II 開催場所

熊本市国際交流会館 3階国際会議室

III 出席者

【委員】

- 河上 強 委員長 （前NHK学園高等学校指導部長、元熊本市教育次長）
神毛 恵 副委員長（税理士、行政書士）
大西 康伸 委員 （熊本大学大学院、先端科学研究部 准教授）
柿本 美樹枝 委員（設計事務所主宰、日本建築家協会）（Zoom）
吉田 洋一 委員 （熊本学園大学、経済学部 准教授）
柴田 治穂 委員 （熊本市小学校長会副会長、黒髪小学校長）（欠席）
森 近 委員 （熊本県キャンプ協会 会長）
沖永 千奈 委員 （熊本大学メイクフレンズ）（欠席）

【熊本市】

（事務局）

- 上村 和也 （青少年教育課長）
寺崎 真治 （青少年教育課主査）
清田 恵理子（青少年教育課参事）

（アドバイザー業務委託者）

- 田中 健二 （株式会社九州経済研究所 取締役統括部長）
松尾 大悟 （株式会社九州経済研究所企画戦略部 主任研究員）
吉永 ひとみ（株式会社九州経済研究所企画戦略部 主任研究員）

IV 会次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 事務局説明（日程、進め方等の説明）
- 4 金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について
 - （1）これまでの経緯について
 - （2）今後のスケジュールについて
 - （3）市民ワークショップ等の実施について

- 5 事業者との意見交換
 - (1) 代表挨拶（出席者紹介）
 - (2) 事業提案内容等について
- 6 その他
- 7 青少年教育課長挨拶
- 8 閉会

V 議事

1 開会

2 委員長挨拶

○委員長

初めて今年の会議をするので、改めて明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。新年早々だが、最近金峰山という名前が大変気になっている。勿論金峰山ビレッジ株式会社様、私共が最優秀選定事業者ということで昨年9月に選定させて頂いた。本日も遠くからおいで頂いていると思う。どうぞよろしくお願い致します。

少し話が逸れるが、大相撲の初場所が国技館で行われているのだが、その中で昨年、九州場所で新十両になったばかりの、現在十両五枚目の金峰山という力士がいる。もう関取である。まだ鬚は扇状にできずに、若手として現在9勝1敗、朝乃山を追いかけて十両優勝になるかと解説者も言っていた。この金峰山というお相撲さんはカザフスタンの出身で、私はてっきり熊本出身かと思いき、幕下試合を待っていたのだが、カザフスタン、中央アジアの方から来て、お相撲さんに弟子入りしている。その弟子入り先が熊本出身の肥後ノ海がつくった木瀬部屋である。親方は元肥後ノ海になる。気になっていたのも、なぜ金峰山なのかと調べたところ、肥後ノ海がお相撲さんを目指して苦勞して練習に励んでいた頃、励まして応援してくれたのが金峰山だということであった。熊本市民にとっても誇りの山であり、遠く離れて活躍している先輩達も故郷のことを思えばこの金峰山、慣れ親しんだ山や川を思い出すのではないかと私は勝手に思っていたのだが、恐らくこの親方も遠いカザフスタンの自然を思い出す代わりに自分の故郷である熊本の金峰山の森、そして山や川を思い出して励めるということで付けたというようなお話も伺った。恐らく将来新しい自然の家が建ち上がり、そこで体験する子どもたちも、苦勞したとき、あるいは泣いて帰りたくなったときに、この素晴らしい体験型の自然の家で遊んだこと、学んだこと、そして金峰山の森や自然を思い出して、また頑張ってくれるのではないかと思いつつ、毎日金峰山を応援している。現在9勝1敗なので、すぐ幕内になり、願わくば、令和7年4月、大相撲では春場所の3月に西の大関か横綱クラスになってくれたらタイミングがいいなと期待している。話が長くなると事務局から「待った」がかかると思うので、相撲の話は止めたいと思うが、是非そのような魂のこもった自然の家に造り上げられ、そして管理運営して頂くようお願いし、まずは挨拶に代えさせて頂きたいと思う。

それでは早速審議に入りたいと思うので、委員の皆様は短時間で効率よく審議が進むよう、ご協力よろしくお願い致します。それでは本日の日程、進め方について、事務局から説明をお願い致します。

3 金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について

- ・事務局より、これまでの経緯、今後のスケジュールについて説明

○委員長

順調に進んでいるというような報告だったと思うが、大変な苦勞もあったのではないかと思います。今の経過報告、それから今後のスケジュール等について、委員の皆様から質問はあるか。

○委員

事務局の方にお伺いする。議会の方での承認を受けているが、この契約について、委員会、議会等からの要望や意見等はどのようなものがあったのか。

○事務局

教育市民委員会で上村課長から議案について説明を行った。当然その前に各委員の皆様には事前に資料をお持ちしてご説明し、委員会当日については、委員の方から新施設の運営にあたってご意見を頂いたところである。その内容については、この審議会でも十分にご審議を頂き、方向性はしっかりと示したところであるが、どうしても今度は直営ではなく、指定管理者制度で運営するという議案を出させて頂いたが、やはり子どもたちをはじめ、教育施設だということで、自然体験学習、環境教育等の社会教育施設としてしっかりと運営していくようにということでご意見をいただいたところである。そして各会派の皆様にもご賛同頂き、無事に議決をいただいたところである。多くの議員とも話したが、非常に期待をされている状況であった。

○委員長

委員、よろしいか。

○委員

はい。

○事務局

今後のスケジュールの件で少し補足をさせて頂きたい。市民ワークショップ等の実施についてご報告させて頂く。要求水準書においても施設の整備、運営にあたっては、市民の皆様の意見を聞くことということで示して、事業者とずっと計画を行うなかで、一定の計画概要が固まり、本日の昼からもワークショップが始まるのだが、その概要について説明させて頂く。

- ・事務局より、市民ワークショップ等の実施について説明

○委員長

事業計画説明・意見交換会やワークショップについて概要説明があったが、委員の皆様から質問はあるか。

それでは私の方から一つ質問する。この意見交換会は随分回数が多く、事務局の立場としては大変かなと心配もするところであるが、この内容について、どのようなご意見が出たか、どのような雰囲気だったか等、私たちも気になるところだが、その報告についてはどうされるのか教えて頂きたい。

○事務局

具体的な報告の方法については、事業者と打ち合わせをして決めたいと思うが、今のところ市としては、しっかりと意見をまとめて、事業者の皆様の共有並びに本審議会または野外教育施設

運営協議会等にご報告をさせて頂きたいと考えているところである。

○委員長

審議会への報告というのは次回の審議会ということになるのか。

○事務局

はい。次回の審議会は7月となっており、かなり間が空くと思うので、まとめ次第、場合によっては、段階的に報告という形でペーパーに落として報告させて頂きたいと考えているところである。

○委員長

そのようにして頂けると私たちも責任を果たせると思う。実は、私は菊陽町の区長をしているのだが、TSMCの工事で、現在区長会でも色々な意見が役場に対して喧々諤々出ている。聞いていたことと聞かなかったことで全然市民や住民の方も違うので、是非色々な意見を聞いて、できないことはできないと正直に申し上げざるを得ないが、そのような点も老婆心ながらお願いしていきたいと思う。

○委員

ワークショップの件なのだが、私も一度、公共施設のワークショップを20年程前に行った。このワークショップのやり方次第で住民の意見を吸い上げるというのはあるが、聞いた部分をどう現場におとしていけるのか、そこのしっかりとしたボールのやり取りをしなければ、結局ただ業者が聞いただけではないかという形があるので、今から基本設計、実施設計というなかで、例えばこういう部分については、意見としてはお伺いするが、できるかできないかということをはっきりさせる部分と、特にこのような部分で皆様の意見を聞きたいというような形で、ある程度交通整理をしておかなければ、何でもかんでも出てきてもなかなかそれを現実におとせない。

既に契約も終わり、大体概要も決まり、我々も審議する中で、決まった後のワークショップというのはどうなるのかという話が出ていたが、その辺りの状況は、業者の方々と事務局の方でうまく整理をして頂き、活かせる部分と、なかなかこれは、ということをはっきり、今委員長からも言われたように、そういった形で伝えて頂き、何のためにワークショップをしているのかということを確認に参加者も事務局も間に入られる方も念頭に置いたところでやって頂いた方が一番である。

私も「言ったけどどこにおちたの」と毎回言われてきた部分があるので、その辺りについては十分事前に調整をして頂いていると思うが、やったがための問題にならないように、やったらやはりいい形で活かしていけるような形に運営して頂きたい。必要なプロセスだと思うので、ワークショップについてはいい意見があり、今後の運営に活かされるような形にして頂ければと思うので、よろしくお願い致します。

○委員長

ありがとうございました。他に何かあるか。

他にないようなので、次に事業者の皆様との意見交換に移りたいと思う。

本日は、金峰山ビレッジ株式会社の皆様には、大変お忙しい中、ご出席頂きありがとうございます。はじめに、代表されて、藤吉様よりご挨拶をお願い致します。

4 事業者との意見交換

(1) 代表挨拶（出席者紹介）

○金峰山ビレッジ株式会社

皆様、こんにちは。この度の金峰山少年自然の家新施設整備事業において、施設整備及び指定管理を仰せつかった金峰山ビレッジ株式会社、私代表を務めている藤吉と申します。

まず、本事業において、審議会委員の皆様には厳正な審査体制の下に私共グループの提案を高くご評価頂き、そして選定を頂いたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆様方のご期待にお応えするためにも、今後 SPC 一同、協議を重ねて、より良い施設整備に向けて精一杯邁進して参りたいと思っています。

そしてこれからいよいよ本格始動に向けて、先程お話があったように、今月から近隣自治会への事業説明、また学生さんや各種団体とのワークショップ等も始まる。事前に市よりお取り頂いている市民アンケートにも沢山のご要望やご意見を頂いているということで、本当にこの新しい施設に対する皆様の関心の高さをうかがえることができます。

本日、審議会委員の皆様方とも意見交換会をはじめ、多くの市民の方々からのご意見をお聞きし、参考にしながら、より皆様に喜んで頂ける施設、そして私共がコンセプトに挙げているわくわくするような施設、そして学校だけでなく友だちや家族、色々な方と何度も使いたいと思って頂けるような新たな少年自然の家のモデルを目指していきたいと思うので、どうぞ今後ともご指導方、よろしくお願い致します。

(2) 事業提案内容等について

○委員長

ありがとうございました。それでは意見交換に移りたいと思う。まず委員の皆様からご意見等を頂き、その意見についての回答、ご見解等を事業者からお答えいただきたいと思う。なお、現時点でお答えできない点も出てくるかと思うので、可能な範囲で結構なので、どうぞよろしくお願い致します。

○委員

金峰山ビレッジのグループの皆様、今回は熊本市と無事に契約ということで、まずはおめでとうございました。少し細かいところに入る前に、まず基本的なところ、先程あった全体スケジュールと、お願いしたいことを少し発言させて頂きたい。

要求水準書にもあったが、公共建築として 70 年持つ木造ということだったが、皆様との契約は運営が 15 年と短期間になっている。意識としては次世代、次々世代まで続けるように 100 年を目指すというか、審議会委員のメンバーでそのような意見交換をしてきた。よって気持ちとしては、契約 15 年という運営ではなく、その次まで残せるような建築のものづくりと運営と維持管理を、しっかりやって頂きたいと思っている。

それから先程スケジュールについての発言を少し考えたのだが、配布資料の全体スケジュール表について、3点程お話しさせて頂きたいがよろしいか。こちらは建設関係の全体スケジュール表になっていると思うのだが、事務局が説明したようなワークショップや会議のタイミングなどといったソフト面の運営面についても少し入れて頂ける全体表が欲しいと思う。

また、具体的な設計体制や管理体制の頻度やそのような人の連携についても、まだこちらには明記されていないので、具体的なことを入れて頂きたいと思う。

3点目は、仕様や仕上げといったものの品質管理、市への確認、あるいは市民への確認等をどのタイミングでされるのか。発注してからでは遅いので、設計段階になると思うのだが、例えば製品のサンプルや色味、それから是非製品安全データシートを添付して出して頂くなど、シックスクール・シックハウス対策に設計の段階から取り組んで頂きたいと思っている。

全体スケジュールに関しては以上3つのタイミングを少し盛り込んで頂きたい。1つ目がワークショップ関係、運営面のスケジュール、2つ目が具体的な設計体制と管理体制、市との連携のタイミングをどこにとるのか。現場の検査も譲渡の前に市の方がチェックに入られるのか。それから仕上げ関係の提出の時期、提案の時期などといったものが少し具体的に入ってくるといい。

今はまだ基本設計の段階なので、急いでお作りになられたと思うが、もう少し具体的なものがあるといいと思った。以上である。

○委員長

委員から全体スケジュールについて大きく3点質問があった。お答え頂ければと思う。

○環境デザイン研究所

私は設計を担当させて頂く。頂いた質問について、全体スケジュールの件、ありがとうございます。まずワークショップ等がどうこの全体スケジュールの中に関わっていくかということについては、この中に追記させて頂く。市民ワークショップ等については2月の段階でまだ明確な日程等が定まっていななかで、期間のみ記載という形にさせて頂いた。

それと運営の協議等がどう関わっていくのかというのも何かしらの形でSPC内で検討させて頂いた上で記載させて頂いていただく。

もう1点は、市とどう関わっていくか。そのタイミングについては、設計段階では事務局からお話し頂いたと思うが、定例会議を実施し、最低でも月1回、必要に応じて臨時の会議をさせて頂き、設計期間についてはそのような会議を実施させて頂くということで記入しようと思考えた。

工事段階については、こちらは三津野建設と相談させて頂くと思うが、どのような形で市の方に検査に入って頂くか。要求水準書も確認させて頂いたうえで、それに沿うような形で検査項目等を入れさせて頂こうと考えている。

仕上げの品質の確認報告について、まず設計段階においては、大まかな仕上げ表は当然用意するので、その段階でどこまでサンプルを用意できるかというのは三津野建設と相談しながら内容については確認頂くような流れが作れると思うが、全体スケジュール表の中で、恐らく実施設計の後半の辺りになると思うが、その辺りで品質確認という形で項目を入れさせて頂こうと思っている。こちらは第1段階である。

第2段階としては、工事に入った後、色彩の話があったが、実際に塗った色見本等、その辺り

の実際に使う材料に塗装が必要であれば塗装をしたものを用意させて頂き、最終的に使用するものを確認頂くというタイミングは、建て方が終わったぐらいに、建物の形が大体分かってくると、実際現地に来て頂くのが一番いいのだが、可能であれば現地で見て頂き、現地の環境の中でどう見えるかということを確認できることが理想だと今は思っている。そのタイミングで確認を進めさせて頂こうと今考えているがいかがか。

○委員

ありがとうございます。実はその仕上げ関係とワークショップの関係、それと管理体制について一つ相談がある。市民参加というのが、我々が当初一番に立ち上げた目標であり、当然設計段階でのワークショップもあるが、例えば建設段階での見学会の開催や、色塗りにしても例えば板に塗装する自然塗料であれば、当然子どもたちでも塗れるようなものだったりするので、そのような参加型のワークショップみたいなものも全体スケジュールが見えてくると開催できるのかなという希望も含めて相談したところである。

よって事務的な処理というよりも、市民参加がどの程度この全体スケジュールの中に入れていけるのか。それを期待して今お話しした次第である。是非盛り込んで頂きたいと思うので、その辺りも検討、よろしくお願い致します。

○委員長

市民が参加する参加型はスケジュールにも見えるような要望かと思う。どうぞよろしくお願いしたい。

○産紘設計

私は一緒に設計監理をさせて頂く。今委員から話があった件は、提案書の方でも現地での建設時のワークショップや、一緒にものづくりをしたり、見学会も確か提案させて頂いていたと思うので、それは実施したいと思っている。

○委員長

ありがとうございます。他にあるか。

○委員

かなり評価が高い案であり、逆に我々としてもチャンレジだったのかなと思う。よって少し問題がないようにというか、より良い案にするようにということでご協力をお願いしたいと思う。

私からは3つお願いがある。1つ目は委員からもあったが、木造を長く持たせるということで、維持管理上の工夫というか、通常例えば木造でなかった場合、建物自体は例えば外壁や屋根等が点検の中心になると思うのだが、木造だからということで、屋内はあまり問題にならないかもしれないが、例えば少し雨掛かりがあるところや、屋根の下など、少し湿度が高かったり濡れたりするところがあると思う。そのような木造ならではの劣化というものもあると思うので、是非日々の維持管理や何年かに1回の点検等のときに、そのような木造ならではの点検を実施するように頂き、RC や鉄骨の場合であればそんなに問題にならないようなことでも問題になる可能性

があるので、予防保全というところで木造を長く持たせるような工夫を是非して頂きたいと思っている。まだその辺りは細かく計画されていないかもしれないが、そこをお願いしたい。

もう1点は、今日初めて細かな図面を見せて頂いたのだが、引き戸ではなく開き戸になっているところがわりとあった。例えば宿泊棟等はシャワールームやトイレが開き戸になっているところで、やはり基本的には外部のお客様が使うところは引き戸にすることをご検討頂くことはできないかということである。全てが開き戸になっているわけではなく、勿論引き戸にされている部分も沢山あるのだが、もう少し徹底して頂くことは可能なのかというのが2点目である。

最後は、既存体育館の改修のピロティの部分に、設備を設置されると思うが、これは屋外のパーベキューサイトや多目的ハウスからかなり見えてしまうと思うので、少し見た感じの目隠しを是非検討頂きたいと思った。室外機等も置いてあるような感じなので、全部覆ってしまうと色々設備的に問題があると思うので、こちらは少し早めに検討が必要なのかなということで、今回少し申し上げた。以上3点は是非ご検討頂きたい項目である。それについてコメントがあれば是非教えて頂きたい。よろしくお願い致します。

○委員長

以上3点について、要望とお尋ねも含めてお答え頂きたい。

○環境デザイン研究所

木造を長持ちさせる件についてはご指摘のとおり、長く持たせる提案をさせていただいたうえで、あとは具体的な手法については、今回PFIということで維持管理業者も参画されているなかで、より具体的な手法をどう取り込んでいくかということのをこれからも取り組んでいくという形で考えている。

特に建築側としては提案のとおり庇を出してなるべく外壁等にダメージを与えないよう、極力雨に当たらないような対応や、耐久性の高いもの、耐久性が高いというのは耐久性を確保できるような塗料を使用していくのだが、その後の話はまだ詰めていく必要があると考えている。

2点目は引き戸の件だが、確かにご指摘のとおりであり、この場で議論になってしまうのだが、実際全て引き戸で計画する案も考えた。運営担当のR.projectと調整していく中で、宿泊室に壁がどうしても欲しいと言われた。物を置いたり、展示したりするために、極力壁は確保したいという要望を頂いている。引き戸にしてしまうと扉が動いてしまうので、引きしろができる。部屋内に入れてしまえばいいのかもしれないが、必ずしも部屋内に入らない場合もあるので、宿泊室側に障子がきってしまうということがどうしても発生してしまう。その辺りを踏まえると、宿泊棟の出入口は当然引き戸にさせて頂いている。それを除く内部の扉については可能な限り引き戸にしていこうと思っている。実態としてはそのような形で現在検討を進めさせて頂いているのが正直なところである。

もう1点の目隠しについては私も確かに気になっており、あまり大袈裟にするとお金もかかってしまうので、目線の高さを気にするなどといった辺りで何かしらいい方策が考えられないかというのは検討していきたいと思っている。

○委員

是非引き戸に関しては安全性というところをより重視して頂きたいということは要望としてはある。あとはバランスのなかで決められるということだが、ここだけはというのは判断頂き、引き戸にすべきところは引き戸ということで、要望としてはそのようなことである。ありがとうございました。

○委員長

要望もあったので、どうぞよろしくお願い致します。

○委員

私が1番気になるのはやはり運営の部分になってくるので、例えばこの委員で1番ご意見を聞きたかったのは小学校の先生目線でどうなのかというところを本当は聞きたかったのだが、ご欠席なので、以前小学校の先生がおっしゃっていたことで私が引かかる点を確認させて頂きたいと思う。

小学校の先生の目線からいうと、分棟型式が非常に管理しづらく、各部屋に子どもたちが分散してしまうと、そこに点検に行くのにいちいち行かなければいけないということで、非常に難色を示されていた。例えば子どもたちが夜心細くなり、心配になり、眠れなくなる子が出てくるところをどのようにするのか。1棟であれば各部屋廊下続きで見て回れるが、分棟型式の場合はそれがしづらいという意見があった。これに関して例えば密に連絡を取る方法、例えばインターホンが付いていてすぐ連絡ができるなど、連絡や確認のしやすさ、安全点検についてまず1点である。

あとは公共の設備なので、災害時に避難施設として使えるかどうかという点が欲しかったのだが、そのところは、この設計図を見たところでは私では判断がつかない。例えば各棟の非常用電源はどのようになっているのか。最初に決めるときにその辺はどうにかなるみたいな感じの意見で案が押し通されてしまったので、災害時の非常用電源、各棟で子どもたちが分散しているときに、危ないからということで1か所に集めるという話もあった。そのときに各分棟が危ないということで、例えば全員多目的ホールに避難し、そこで寝起きするという場合に、全員収容できるのか。また、例えば台風等の災害があり、近隣の方が避難してきたいといった場合の受け入れ体制、そのような場合の非常用の電源や水道、その辺りの管理の仕方、その辺りがどのようになっているのか。災害時の対応がどこまで可能なのが2点目である。

こちらの運営事業の計画で気になった点で、先程の目隠しが必要という話にもなってくるのだが、23ページの「プライバシーに配慮した整備」ということで、適度な隔離や廊下辺りである。テントサイトがどうしても分離棟のテラスの方に面しているので、お互いが見えてしまう。よって適度な間隔と目隠しを植栽によって配慮したいと書いてあるが、設計図のままではぼつんぼつんと木があるだけでほとんど目隠しになっていないので、私としては例えばツバキやヒイラギ等で垣根みたいに囲ってしまうことは可能なかどうかをお聞きしたい。以上3点である。

○委員長

分棟のうへのデメリットを我々も心配して審議したところだが、それをカバーするような方法

が可能かどうか、見解を聞かせて頂ければと思う。特に小学校の方は集団で宿泊する。引率者の立場に立てば非常に心配だと思うので、安全面の対応について見解を聞かせて頂きたい。

○環境デザイン研究所

市とも災害についてはよく議論したうえで回答しなければいけないのだが、話していいか。

○事務局

現在事業者が思われているご見解ということでお話し頂き、今後の対応は協議していきたい。

○環境デザイン研究所

もしかしたら踏み込んだ議論、発言になるかもしれない。ご了承いただきたい。

まず災害については大きく2つあると思う。まず外からの人が何か災害があったときにこの施設に避難してくる場合と、もしこちらで活動が行われているときに災害が起こり、外に出れなくなり、一定期間こちらに滞在する場合と2つあると思う。

まず1点目については、この施設が恐らく市の広域避難場所に指定されていない。だから何もしないというわけではないのだが、そのときに思わず心配になり、こちらに来てしまう人がいる可能性がある。そのような方々をどのように対応するかは、まだ具体的には関係者間で議論できていないので、その辺りを議論していく必要があると考えている。

もう1点は、実際に活動しているときの災害である。恐らく台風等の荒天のときは利用されない可能性が高いので、考えられるとすれば地震とそれに伴う火災等が想定されると思う。地震に対しては、建物については、重要度係数という数値があるのだが、その部分が1.5倍となっており、いわゆる学校同等以上となっている。学校は1.25なのだが、目安としては学校よりもある程度地震力を割り増した計画には見込んでいこうとしている。倒壊しないとは言い切れないが、相当な耐震性を構造的には持っている。

次に設備的にどこまで対応するかということについては、発電機は一定数置いているのだが、こちらは停電が起きたときの非常用の発電機である。避難場所としての発電機は置いていないということである。ただし発電機は置いている。そこは今あるものをどのように活用できるかということも議論していくことはできると考えている。

各部屋に連絡を取る方法については、現在各部屋に電話を置くようにしている。電話をご用意しているので、そこで内線に繋ぐような形で連携はとれると考えている。

テントサイトについては、割と見通しがよい方がよい等、色々ご意見があると思うが、周りの景観もかなり魅力的な空間になっている。ただ一方で目線の問題を気にされる方もいらっしゃると思うので、その辺りについては、できるかできないかでお答えすると囲むことはできる。それを囲んでしまったがゆえに、せっかくの開放的な場所が閉塞的になる恐れも考えられると個人的には思っており、その辺りは少しバランスを踏まえながら、関係者間で議論しながら聞きたいと思っている。

○環境デザイン研究所

私はランドスケープを担当している。3点目のテントサイトの詳細については、今申し上げた

とおりに、あまり死角を作り過ぎない程度に、目隠しをしながら、また抜けを作りながら、そこは程よいところを考えたいと思うので、また今後慎重に検討したいと思う。

○委員

まずは、ワークショップを開いてみて、実際に利用される方々の反応を見てみなければ私も正直分からないところが非常に多く、よってこの段階であまり質問してもどうかというところもある。ワークショップで皆様のご意見が多々出てくると思う。実際に利用する立場の方々からのご意見が一番重要だと思うので、そこが反映されない内容になってしまうと、「ここは少し使いづらい」ということで利用者が減れば当然収入が減っていき、立ち行かなくなってしまうので、次のワークショップの内容を聞いてみなければ私も分からないというところではある。

ただ、このテントサイトに関しては私の個人的な意見として、せめて目線の高さでの植栽が欲しいということである。テントから出たらすぐ目の前がデッキで人がいたというのは非常に気まずいので、せめて目線の高さの植栽があれば嬉しいという個人的な意見である。あとはワークショップの方のご意見を聞かなければ、私も分からない状態である。

○委員

やはり学校が利用した場合の安全面、分棟にしたときの課題、それをしっかりと聞いて頂き、整理して頂きたい。「こうします」ではなく、急病人が出たとき、災害のとき等に、この分棟は自主性を重んじており、我々もこれは評価したことだが、自主性と安全性をどううまくマッチングしていくのか、それは逆に言うと、利用して引率する先生方からすれば、まず第一に考えるのは安全だと思う。そういったときにどのような形のサポートができるのか、恐らくワークショップでもそのような話は出てくると思うので、その体制づくりを詰めて頂き、管理運営する側と施設の配置の観点から対応して頂けないかと思う。こちらは委員のなかでも議論が出てきた部分でもある。

また、私が現在一番懸念していることは、電話でもそうなのだが、例えば分棟型にしたときにリーダー室をどこに置くのか、管理事務所の近くに置いておくのか、分棟型の中央辺りにリーダーの先生方がいる場所を置くのかである。1番端にあった管理事務所と先生が同じところにおいて、一番端の分棟のところで怪我や病人が出たときに、そこまでどう走ったり、連絡をしたり等、ある程度想定されることがあると思うので、可能であれば今後、実施設計等ができた段階ではその辺りのこともしっかりと説明できて、「こう対応します」という例示も出して頂きたい。「インターホンがあります、電話があります」ではなく、「このようなときはこのような形でしっかりと対応できる体制をとります」という形を、設計側と運営側で共有して頂ければと思う。その辺りについてはよろしくお願ひしたいと思う。

運営面については、私は現在県キャンプ協会の会長を務めており、このような施設で集団宿泊訓練が学校で行われて、新しい少年自然の家のモデルという形であれば、具体的にはどのようなプログラム等を考えているのか。今までは連れていき、宿泊させて、金峰山に登山したり、屋外での活動等があったが、今後はどのような形の提案ができるのか、そのようなプログラム内容についても具体的なものを現在検討されていると思うが、現場を使ったところでどのようなことができるかを提案して頂きたい。

もう1点は、設計段階の協議の中で出ていたのが、敷地内での活動がなかなか難しいということである。全部宿泊棟になってしまっており、そこの中での自由時間をどう過ごすのか。そのようなプログラムを具体的に、「雨の場合はこのようなことができ、分棟型でこのような形にしているから、他所でできないこのようなプログラムができます」ということを何かモデルとして出して頂きたい。

またもう1点、学校側との連携について、連れてくる先生方と施設の運営の皆様でどういう形で今後対応していくか。特に施設に預けたらそちらの方でやって頂くという感じではなく、先生方にもっとこのような野外活動の趣旨や目的、こちらで学ばせたいこと等を一緒に考えて頂き、その中で1泊2日や2泊3日の短い時間なのだが、そこでしかできない体験、「やはりこういった少年自然の家は必要だよ」ということを学校の現場の先生方にも分かって頂くための研修等、これは教育委員会が絡んでくる部分であると思うが、教育委員会と施設と学校と一緒に、若い先生方も含めて、そのような場をつくって頂きたい。打ち合わせのための連絡ではなく、研修をするような形でして頂きたい。

現在、他は段々と廃止しているような部分にこれだけの投資をしていくのであれば、他にないということを含めて、「やはり子どもたちに対しては集団宿泊訓練などといった訓練が必要である」ということを提案できる施設にして頂きたいと思うので、その辺りはお願いである。

特に個人のキャンプは現在盛んになってきているのだが、集団で子どもたちをキャンプに連れていくなどといったことは段々難しくなっている。このようなことは青少年の団体では必要だと思うので、是非その辺りの一つの基地になりながら、一緒にそのような体制を作っていきたいと思うので、今後よろしくご指導をお願いしたい。

○委員長

運営面のお話が出たようだが、こちらは見解を事業者の皆様からお願いしたい。

○R. project

私たちが今回こちらの事業に応募させて頂く中で、自然体験でしか得られないというところの体験価値等、そのようなところに関してはとても可能性を感じているので、来られる方、学校の先生、キャンプ協会を含めて、色々な野外活動をしている熊本の団体と一緒にそのような価値というものを広めていけるような拠点にしていきたいと考えている。

その上でご指摘頂いている分棟型に対する不安や課題はあると認識しているので、その点に関してはワークショップ等から先生方からご意見を頂き、「この課題をこのように解決できます」という部分の提示を今後検討させて頂きたいと考えている。

サポート体制やプログラムの点に関しても、提案書で提案させて頂いているような地域の事業者の方と連携したプログラムを含めて、中でできることという部分ももう少し具体的な提案ができるように準備を進めて参りたいと思っている。

また、学校との連携に関しても、野外活動の価値という部分を先生方にも一緒に認識して頂き、よりこの場所に来たくなるように、色々一緒に考えていきたいと思っているので、今後運営に向けてはもう少し時間があるので、色々な団体を含めて協議しながら、課題等を解決しながら検討していきたいと考えている。以上である。

○委員長

グループの方から他に何かあるか。私も若い頃、子どもたちを集団で引率していたが、一つだけ念のため、私の経験をお伝えする。

夜のキャンプファイヤーが終わった後は周りが暗い。目立つ明かりや目印もなく、子どもたちは方向感覚を失う。そのような中で、夜のプログラムを終えて、自分のテントに帰るときに、同じテントが並んでいるので、自分のテントが分からなくなってしまう。それでどうなったかという、一晩別のテントの隅で寝ていた子がいた。その間引率の先生方は、「行方不明者が出た、消防団に知らせなければ」と大騒ぎになった。分棟で同じような家が建つ予定であり、景観的には非常にマッチしている。素晴らしいと思っているのだが、その反面、あまりにも自然にマッチしすぎて、自分が帰る場所が分からなくなるのではないかという心配もある。周りには金峰山の深い森がある。そのようなところに一度入り込めば、それこそ一晩探し回らなくてはいけない。通路に「ここは通路だよ」、「ここを通ればどこかのテントに行くよ」といったような、目立たないような案内の工夫が欲しいと思っており、自分の家はここだという、目立たなくて子どもに印象付けるのは非常に難しいのだが、「この目印はあなたの家だよ」というような形で管理する側がはっきりと明示できるようなことをお願いしたいと思う。

またもう1点は、各棟に非常の場合のマニュアルで詳しく書かれたものを備え付けて頂きたい。大人には分かっても子どもには分からない場合が多い。各棟に先生を1人付けることはできない。家1軒に子どもたちだけで一晩過ごすことになるので、そのような目線での対応を是非お願いしたいと思っている。以上、安全面についてであった。

○委員

今回新しい部分になっているタワーと大屋根の2点がどうしても気になる。恐らく下から吹き上げる風の影響が相当あると思うので、是非強度をしっかりとお願いしたいということが私からのお願いである。

○環境デザイン研究所

ワイルドタワーと大屋根広場の部分を構造的にしっかりとしてほしいという話だが、ワイルドタワーの部分については、鉄骨のラーメン構造という強固な構造にしており、重量も十分あるので、風等の影響に対しては問題ない。当然耐震性も十分あるというような形である。

大屋根広場についても、開放性も高いながら木造で造ることを考えており、こちらは柱の断面を他の部分よりも割り盛りして、剛性を上げ、固さを上げるなどといった形で対応しているので、風荷重等にも十分対応できるようになっている。

○委員長

あの見栄えのいい建造物だが、強度の面での心配もある。地域上吹き上げる風も強いと思うので、どうぞよろしくお願い致します。

○委員

少し建築の質問をしたい。1 つは、多目的ホールの出入口に結構苦心されているのが見て取れるのだが、これは靴を脱ぐという前提があると思うが、そこが混みそうだなと思った。駐車場側から入ってくるという前提はなく、東から入るという前提で見たのだが、こちらはエントランスと書かれているところから皆靴を脱いで中に入るような感じなのか。そこはぐるりと回廊のようなものがあるので、そこで靴を脱いで入るのか。その辺りを教えて頂きたい。多目的ホールは結構人が一斉に出入りするようなどころがあると思うので、そこを教えて頂きたい。

また、森林学習スペースにテーブルとソファが置かれているのだが、こちらの利用の前提はどのように考えられているのか。その2点を教えて頂きたい。

○環境デザイン研究所

エントランスについてはかなり苦戦しているが、極力これから広げようと考えている。動線計画としては、基本的には宿泊棟と管理棟等、色々な建物をリング状に繋ぐような構成を考えているので、極力メインのエントランスは東側に設けようということで検討を進めていた。

実はこちらの部分は、今回今までの市との打ち合わせ等を踏まえて、色々ななかで、提案のときはくっついていたのだが、色々な設備や構造、雨水処理等を踏まえると、既存の多目的ホールと食堂とは分離した方がより良いのではないかとということで、この流れで検討している。そうすると一方でエントランスの方が手狭になっているので、現在現地で測量の精査をしているのだが、その辺りを踏まえて、この間隔はなるべく広げたいうえでエントランスを広げられないかと、設計側としては考えている。

確に対策案としてこの西側から入るという方法も考えられるかもしれない。今西側のこの部分というのはゴミ置き場等が描いてあると思うが、どちらかというとも厨房側のバックスペースとしてあまり目立たないような形で、正面の駐車場側から見にくいような感じで造れないかと考えている。それを出入りまでできるようにするかどうかは、それによって、こちらで下足入れが必要になってくる等の対応も出てくる。理想はメインエントランス側を大きくできればよりいいと思うので、その方向でさらに検討を進めていけたらと思っている。

森林学習スペースについては、要求水準書にもあったが、木育教育を積極的に実施していきたいという要望があり、木育教育が実践できる場として設えていこうと考えている。具体的な利用についてはまだ変わっていく可能性はあると思うが、恐らく書籍は木育に関するものになっていくのか、こちらは **R.project** と相談できていないのだが、そのような形で今後ワークショップ等の中でご意見が出てくるかもしれない。そういったなかで中が変わっていくのかなと考えている。

○R. project

書籍等、色々なものを参加者や利用者の方と一緒に作っていくときに、そのようなものの展示をしていったり、近隣の竹林や森林の状況等を学習する機会というプログラムも用意しているので、そのような資料や、学習した結果を貼り出すなどといったことをしていきたいと考えている。

○委員

少し特徴的なスペースだと思うので、倉庫みたいにならないように、活用をしっかりとできる

ようにして頂きたいというのは要望としてある。ありがとうございました。

○委員

今日全部お答えできなくても構わないので、皆様の前で少し確認したいことだけ発言してもよろしいか。

○委員長

どうぞお願い致します。

○委員

委員の発言に絡めて、まず、森林展示学習スペースについて、非常に狭く、出入口も閉じられているので、子どもたちがなかなか中に入っていくにくいと思う。そこで、例えば通路と一体化できるような、天候が良ければ少しオープンにして、廊下も含めて学習できるようなスペースにするなど、少し工夫がいると思った。雨の日の学習コーナーになると思うので、これだと本当に限られた人数、集団生活の中でどのようにここで学習していくのか少し疑問に思った。

今運営面の話があったが、広げるような間取り、使い方で、もう少しオープンにできるとよいのではと思う。こちらに今ある森林学習館が移ってくるので、その辺りもワークショップの際は市民の方に重々説明していただきたい。こちらはおまけで少年自然の家が付くというのではなく、1つ機能がこちらに移ってくるという前提でいくと、やはり少しスペースが狭く、使いにくいそうなので、もう一声工夫が欲しいと思う。

図面については、1番メインの子どもたちの泊まるスペースは、1階が1グループ、2階が2グループというイメージで、ロフトは天井高1400ということは物置きなので、ここを居室、寝室スペースとは考えていないですよねという確認である。ここにも子どもたちが寝泊まりする予定なのか、これで確認申請通るのかなど。

それから、手洗いの位置について、実は私たちは、ウィズコロナ、アフターコロナということで、各部屋に手洗いがあるといいという議論をしてきたところで、御社のグループに手洗いの案があったので採用に至ったのだが、手洗いの位置がシャワールームの中にあると、入ってきてすぐに手洗いができない。集団生活なので、一度に歯磨きをする場合、誰かがシャワーを使用していると、なかなかシャワールームに入って歯磨きができない。このお手洗いは単独で入口付近に出してこれないのか。ただこの案は、床の仕上げや掃除など管理の面では、確かにホテルライクで家族の寝泊まりには非常にいいと思うが、学校の集団宿泊という点では手洗いは前面に出して、その身の回りも綺麗に使うといった生活指導も含めて行えないものだろうかと思っている。

森林展示学習スペースについては改善の希望である。そして手洗いの位置の見直し、ロフトはどういう扱いなのか。それとテレビが入っているが、リビングの頭上にあり、見にくく、その位置に必要なのか。これは要求水準書にあった話ではないような気がする。私も記憶が曖昧だが、子どもたちの学習・宿泊スペースとしては必要ないと思う。それよりも避難のためのインターホンやテレビモニター付きのインターホンに切り替えるなど、そういう方に設備投資して頂いた方がいいと思う。

時間がないということなので一度に言う。回答は後日で構わない。委員の皆様からも、「委員の

意見とは違う」という意見が出てくると思うので、そちらも補足して頂きたい。

次に、食堂についてである。手洗いと同じことなのだが、食堂の入口が、メインのところから入ってすぐに手洗いが無い。トイレにわずかにあるが、やはり集団生活ということで、手洗いをしてから食堂に入るという指導がこれまでもなされている。入口の方に手洗い器があった方がいいのではないかという点と、トイレは多目的ホールと連携して使うためにこの位置にあると思うが、無理してスペースが狭くなっている。先程委員からもあったように、メインの入口辺りはドアではなく、衝突しないようにせめて引き戸にした方がいい。それから、水回りに一般の方が使う配慮が足りない。当然車いすの方向けのトイレはあるのだろうが、私たちはお子さん連れのキャンプ、利用も前提として考えてきた。ベビーチェアや授乳室など、子育て世代への配慮が水回りに見受けられないので、追加頂けないか。もしかしたらどこかに畳コーナーを作り、赤ちゃんのおむつ替えができるなど、泊り客ではない方たちも利用する場合の水回りの配慮が欲しいと思った。よって食堂棟に関しては、手洗いの位置とトイレの中身の見直しをお願いしたい。

次に、駐車場について。車の右回り左回りの問題もまだ残っていると思うが、私が気になっていたことは、全く木陰がないことである。シンボルツリーでクスノキというご提案があったと思うが、金峰山全体がクスノキの山なので、あえてクスノキでなくてもいいのではないかと思いつながら、中央のロータリー風になっているところの駐車場の木陰を植栽でご提案頂くか、パーゴラのようなものを作る、あるいはそういったところに少し屋根をつけて、例えばそこに太陽電池を載せてみるなど、色々な工夫ができると思うので、少し駐車場の精査をして頂きたい。ランドスケープデザインの担当の方がおられるということなので、その方たちと市民のワークショップも含めて再検討頂きたい場所である。

また、インテリアの家具については、ベッドがソファベッドであり、木のベッドではないのかと思うが、例えばよくある畳ベッドのようなものはご検討頂いていないのか。熊本は、い草生産日本一であり、無農薬の畳も作っているので、子どもたちの健康によい畳をどこか、畳コーナーなのか、畳ベッドなのか、家具にも採用頂けないかという希望をお伝えしておく。

図面にケチをつけるわけではなく、私たちが今まで要求水準書について議論してきた希望を、今の基本設計の段階でもう少し反映して、それでワークショップに臨んで頂けるとありがたいと思っている。

○環境デザイン研究所

まず、森林学習スペースについては、確におっしゃるとおり、私もこちらは開けていきたいと思っている。手狭なので製品で言うとヘーベシーベのような大型引き戸、あとはコストの相談はあるが、極力オープンに開けて、廊下が縁側的に使えるような計画にしていければと考えている。

ロフトの部分は、平面図にもあるとおり、寝所としても見込んである。高さは建築基準法上ではロフト扱いになるので 1.5mを切らなければいけないということで、その分をギリギリで確保しており、2段ベッドの延長線として取り扱っているというような考え方で計画している。

食堂の出入口に手洗いがあるようにとの話だが、図面には記載されていないが、入ってすぐの右上の部分に手洗いを配置している。ただ、入ってすぐに手洗いというご指摘であれば、内部にご用意するような形になってくると思うので、その辺りは関係者間で議論しながら進めていければ

と思っている。

テレビについては、昨日も市とどうするか打ち合わせしていたところである。色々なご意見を頂きながら、この辺りの整備については方針を決めていきたいと思っている。

宿泊棟の手洗いについては、できるかできないかといえはできるので、一旦検討図を作成して、皆様と協議したいと思う。R.projectからの意見はあるか。

○R. project

屋外に手洗いできるスペース等を造ると思うので、その辺りも含めて検討できたらと思う。

○環境デザイン研究所

委員としては、入ってすぐにつけた方が安心ということか。

○委員

はい。それと集団で泊まったときに歯磨きをする場合に、誰かがシャワー室を使っていたら手洗いが使えない。家族ならいいが、ホテルライクすぎるので、集団宿泊としての配慮が欲しい。

○環境デザイン研究所

集団で使う場合には、浴場棟があるので、シャワーは使用しない可能性が高いと考えている。

○R. project

学校利用限定で見ると、学校側からの指定があると思うので、部屋のシャワーはほとんど使わない想定である。

○委員

衛生面で手洗いを出入口付近に設置してほしい。分棟型の場合、外からいきなり部屋に入れてしまうので、これでは手を洗うタイミングがない。下足入れの上に消毒を置くとは思ったのだが、今子どもたちは徹底して手洗いうがいを指導されているので、手洗いを外に出した方が使い勝手はよいと思う。シャワーは使わない前提であったとしても、手洗いは出入口付近に変えていただきたい。他の委員の皆様も結構この辺りは議論したと思う。

○環境デザイン研究所

屋外に手洗いを設けてはいたが、いただいた意見を踏まえて検討する。

子育て世代用のベビーチェア、ベビーベッド、授乳室等については、多目的トイレに配置している。ただ授乳室は設けていない。よってどこをどう使うか、どう整備していくかは市と相談しながら検討させて頂ければと思う。食堂棟に隣接した方がいいのではないかという意味ではなく、敷地内にそのような機能が合った方がいいというご指摘でよろしいか。

○委員

基本的に運営とプログラムと絡んでくると思うが、宿泊する人は自分のテントとか宿泊棟でや

ればいいわけで、要は、今後はカフェや食堂だけ利用しに来る方も運営上出てくるとしたら、また多目的ホールは恐らく地域の方が少し運動したいとか、そのような方に開放する体育館のような場所なので、色々な使い勝手を想定した方がいいと思う。

今までは集団宿泊がメインであったが、これから市民の憩いの場に移行していくときには、そういうものは、今は常識的にセットなのではないかと我々は思っている。

○環境デザイン研究所

よく分かった。

○委員

絶対に授乳コーナーでなくてはいけないということではない。畳コーナーが少しあるとか、少し具合の悪い人が休めるところを授乳コーナーにしてもいい。その辺りは柔軟に。ただ、このプランの中にそのような言葉や項目が全くと若いお母さんたちは入りづらいという印象になると思う。

○環境デザイン研究所

分かった。また、駐車場の植栽については私もあったほうがいいのかと思うので検討する。ソファベッドについては、**R. project** と話をしている、多目的に使えるようにソファベッドにしようとしたという意図があった。

○委員

おっしゃるとおりである。

○環境デザイン研究所

畳のスペースについては、私も畳は好きなのだが、今考えているのは、ロフトの部分を畳にして、畳のスペースとして使えないかと提案では考えていた。コンパクトな空間で、落ち着いて話をしたりするような空間にできないかと考えていたが、ベッドはソファベッドよりも普通のベッドのほうがいいのか、い草を積極的に使えないかという話なのか、その両方という話か。指摘の真意を確認させて頂きたい。

○委員

例えば、畳ベッドも考えられるという話である。畳になったときはメンテナンスも大変だと皆様おっしゃる。ただ、置き畳でもいいのでどこかに畳コーナーを設けたり、ベッドであれば組み立てなおす必要なく畳だけ取り換えるなど、また木材だけでなくい草の地産地消に向けても、そういったものをどんどん採用して頂きたい。

実は今、畳の需要が減っており、子どもたちが畳に接する機会が本当に無い。しかし一度触れたら子どもたちは畳が大好きになる。一方で、海外では畳というエコロジーな素材と和室というものが見直されてきており、西洋の人たちからの評価がかえって高いところがある。インバウンドまで話が飛ぶと大きくなるが、海外の方ももしかしたら泊まりにくるかもしれな

いとなったときに、畳の部屋があるのと無いのとでは全然違う。そういったことも考えながら、地域の伝統とトレンドと子どもたちの気持ちよさ、そのようなことをミックスしたら畳はありではないかと思うので、採用を検討して頂きたい。

○R. project

畳の維持管理のしづらさという部分もあると思うので、そういったところも踏まえて検討していきたいと思っている。触れ合ってほしいという気持ちは私たちもあるが、長期で使っていくことを考えると、畳は維持管理のコストがかかってしまうので、そういったところも含めて検討させて頂けたらと思っている。

○委員長

検討して頂くということでよろしいか。

○委員

はい。よろしくお願い致します。

○委員長

時間も迫っているので、1点だけお願い致します。

○委員

今気付いたのだが、管理棟の北階に喫煙所がある。これは実際設置するとなると少し。こちらは計画されているのか。

○環境デザイン研究所

結論としては、こちらには設けないが、どこかしらに喫煙する場所が必要だという話は市から頂いているので、その辺りの整備については今後詰めていくという形で進めていく。

○委員

そのことについて逆に市にお伺いしたい。これは自然の家かつ熊本市の建築であり、現在私たちの大学でもキャンパス内では一切喫煙はできなくなっているなかで、これはどういう見解でこのように設置されるのか。

○事務局

喫煙施設については熊本市の施設、直営施設については全面禁煙ということで、灰皿は設置していない。今回の新施設についても原則は全面禁煙にするべきところという認識は十分持っているところであるが、指定管理の施設については、指定管理者の最終的な判断に委ねるところである。熊本城城彩苑等、職員の方などが市民の受動喫煙にならないような場所に設置しているというのは現状としてある。

そこで私が考えるのは、当然タバコを吸う人がいない、または長時間にわたって吸わないと

というのがよいのだが、火による火災を非常に心配している。敷地内だけではなく、近隣は国有林があるので、キャンプファイアーも同じなのだが、タバコのポイ捨て等があった場合、貴重な自然の森林火災というのは絶対にあってはならない。自然の家の入口にも民家がある。そのようなところで、当然学校利用者等はその辺りはしっかりと周知しているが、隠れて吸わないような対応は今後事業者と話していきたいと思っている。基本禁煙施設であるが、隠れて吸わないように、火災を絶対起こさないという観点で考えていきたいということで、事業者と話していきたいと思っている。

○委員

事業者の方々の判断ということなので、是非何となくどこからかほのかにタバコの臭いがする施設にならないようにして頂きたいと思う。屋内でしっかりとした設備を設置して、そこで喫煙をするという方向になると思う。どうしても敷地のどこかでとなると絶対に風向きによってはタバコの臭いはすると思う。屋外で過ごされる方も多いと思うので、不快な状態にならないように配慮して頂きたいと思う。ありがとうございました。

○委員長

時間が過ぎようとしているので、最後に事業者の方から確認事項、あるいはご意見等あればお願いしたいと思う。これはとても無理だということはないか。我々も審議しながら、正直言って、この予算で大丈夫なのだろうかと思いつつ、将来の利用者のために厳しいことも色々要求して、お願いもしてきたところである。事業者の方はよろしいか。

○金峰山ビレッジ株式会社

今回の事業について、予算的なものについては本当はかなり厳しいものがあるので、今日頂いた色々なご意見、対応できるものについては十分協議を重ねながら、また難しいものについては、お互い歩み寄れるところまで着地点を見つけていきながら、今後進めていきたいと思っている。

○委員長

建ち上がってからは、取り直しはできないので、子どもたちや市民が夢を持って訪れるような素晴らしい施設を造って頂き、更に管理も運営も全国のモデルになるような熊本型のしかも分棟でという素晴らしい施設に仕上げたいと思っている。それでは時間もきたようなので、これで意見交換を終了したいと思う。事業者の皆様、本当に今日は遠いところありがとうございました。それでは会議の進行を事務局の方へお返すする。

5 その他

○事務局

委員長をはじめ、委員の皆様、事業者の皆様、長時間にわたり熱心なご協議ありがとうございました。

○事務局

それでは事務局からご報告をさせて頂き、また委員の皆様にお願ひがある。先程令和5年度の審議会を7月から8月上旬にかけて日程調整させて頂くということでお願ひした。そこは必ず行わせて頂きたいと思うが、今度は事業の進捗状況等において、また委員の皆様にご報告したり、またご意見を賜りたい部分もあるかと思うので、そのときには新年度に入り、場合によっては1回、そして7月8月が最後の2回目ということも、委員長と相談させて頂き、日程調整も場合によってはさせて頂きたいと思うので、どうぞご理解ご協力をお願ひしたいと思う。

そしてもう1点、今事業者と色々設計の協議等もさせて頂いているのだが、大きな課題も委員の皆様にも共有させて頂きたく、報告をさせて頂きたいのだが、事業者の方も事前調査で敷地の測量もしっかりと行って頂き、熊本市の方も施設の境界確定を不動産鑑定士、または国との境界立ち合い、民間の方々との境界立ち合いを行い、12月末に正式に市の境界が確定した。そちらと事業者が測量して頂いたものをしっかりと確認したところ、元々の自然の家の図面よりも、狭くなるという課題が分かったところである。

そこで、駐車場のスペースの部分が一部、駐車場台数が今の概算では5台程度、また施設全体が若干東の方にずれるということも現在精査して頂いているので、そのような状況だということ、まずは報告する。

また現在、ワイルドタワーのところに防火水槽がある。市の施設ということで、消防局とも今後防火水槽の位置等をどうするのかということも事業者と一緒に、検討していきたいと思っているところである。以上、今の状況をご報告させて頂いた。

6 閉会

○事務局

それでは閉会にあたり、上村青少年教育課長よりご挨拶申し上げます。

○上村青少年教育課長

長い時間ご議論頂きありがとうございます。今日貴重な意見を委員の皆様から頂いたので、こちらについては事業者と一緒に、また話し合いを行っていききたいと思う。特に建築については詳細設計してしまうとどうしようもなくなってしまうので、事業者とのやり取り等については、特に建築部分については逐一皆様にご報告させて頂き、ご理解頂くというやり取りを今までも行っていたと思うが、そのようなことを引き続き行っていきたく考えている。

本日委員長からもお話があったかと思うが、今後ワークショップや説明会で出た意見もお返しして、それに対するご意見を、メール等でやり取りしていきたいと思う。場合によっては図面を直接お持ちしてでもご意見を頂きたいと思っているのでよろしくお願い致します。

また、なかなか厳しい予算の中ではあるが、是非我々もいいものを造って頂きたいと思っているのでよろしくお願い致します。本日は本当に長時間、素晴らしい議論を頂きありがとうございました。

○事務局

それでは以上で第3回審議会を閉会する。ありがとうございました。

以上